

なかむら

中村遺跡(本発掘調査A)

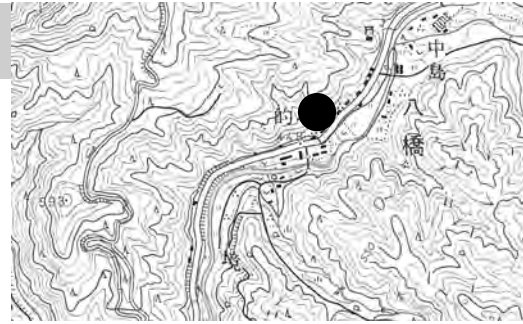
所在地 北設楽郡設楽町八橋字道上地内
(北緯35度7分41秒 東経137度35分16秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和6年7月

調査面積 22㎡

担当者 堀木真美子・田中 良



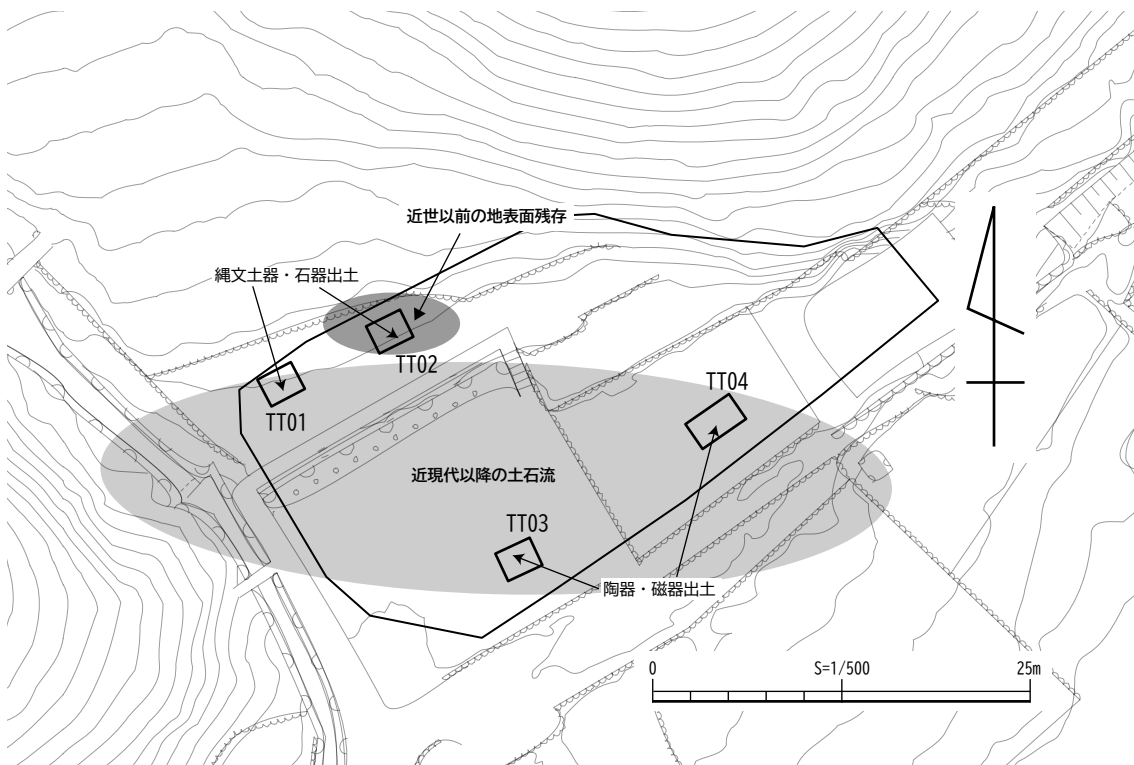
調査地点 (1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。調査は遺跡の範囲を確認するために、遺跡の北東側の緩斜面地にTT01～TT04の4箇所のトレンチを設定し、実施した。トレンチは2m×2.5m×3箇所、2m×3.5m×1箇所で総面積は22㎡である。

立地と環境 遺跡は、豊川支流の境川上流右岸に所在する(設楽町八橋地区)。境川がつくる幅約150mの谷地形の北縁を北東から南西方向に伊那街道が延びており、その沿道に八橋地区の集落が展開する。街道は標高約449～452mにあり、遺跡はそれを境として北西側の斜面地(標高約457～472m)と南東側の平坦面(標高約445～452m)に立地する。

調査の概要 今回の調査では、現況の緩斜面地が土石流によって形成されていることが分かった。また、TT02では、縄文時代中期後半から後期の土器片や石器が出土し、あまり摩滅していないことから、この地点よりも山側に縄文時代の遺構が展開する可能性を確認できた。

(田中 良)



中村遺跡調査区配置図 (S=1/500)